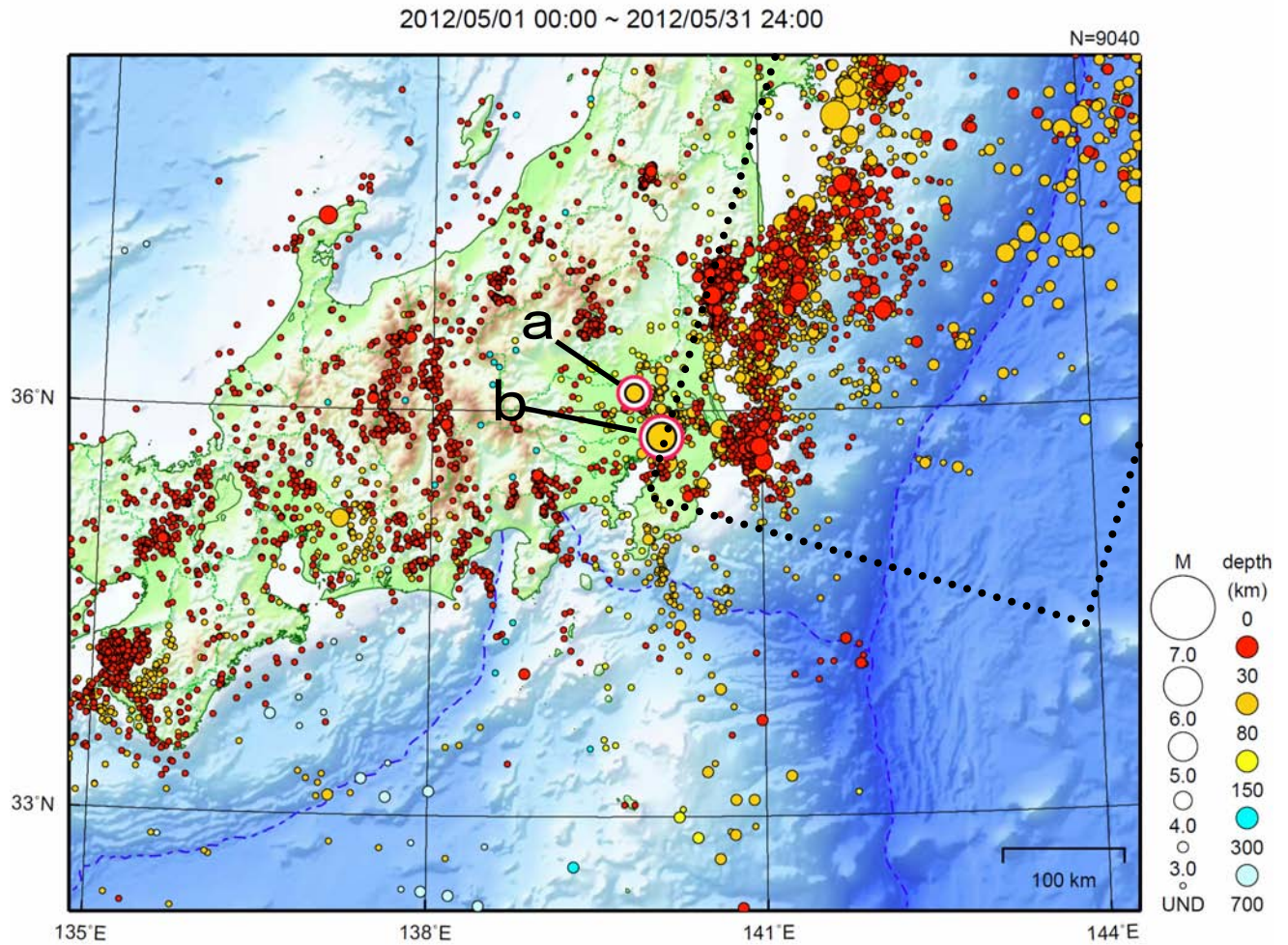


関東・中部地方



※ 点線は「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の余震域を表す

地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 5 月 18 日に茨城県南部で M4.8 の地震（最大震度 4）が発生した。

b) 5 月 29 日に千葉県北西部で M5.2 の地震（最大震度 4）が発生した。

（範囲外）

5 月 27 日 06 時 48 分に小笠原諸島西方沖で M6.3 の地震（最大震度 2）が発生した。

気象庁はこの地震に対して〔父島近海〕で情報発表した。

（上記期間外）

6 月 1 日に千葉県北西部で M5.1 の地震（最大震度 4）が発生した。

気象庁はこの地震に対して〔茨城県南部〕で情報発表した。

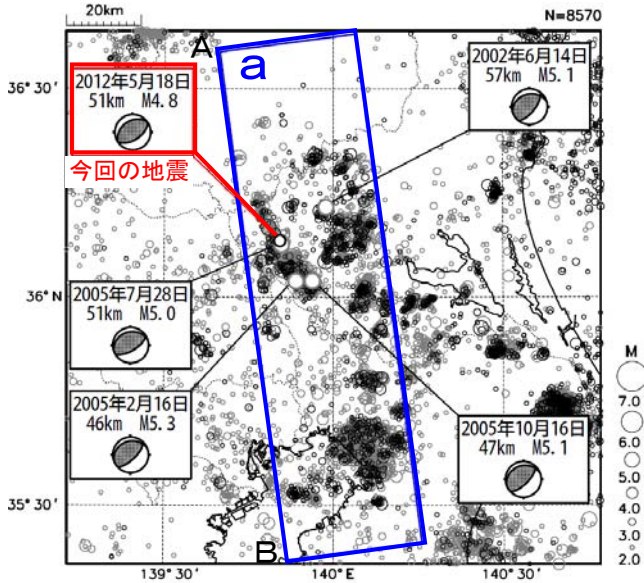
6 月 6 日に千葉県東方沖で M6.3 の地震（最大震度 3）が発生した。

〔上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。〕

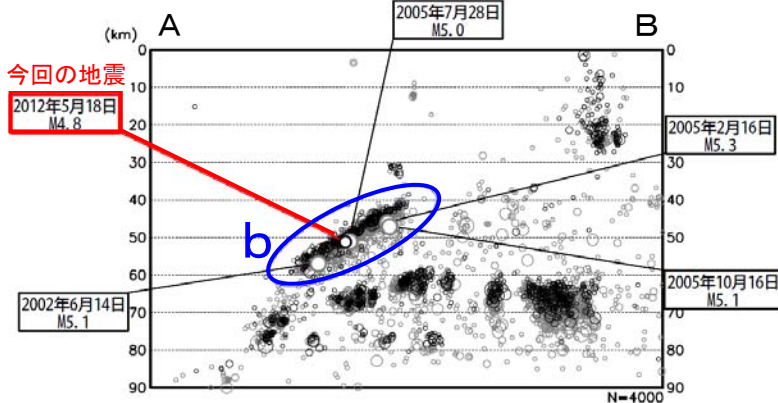
気象庁・文部科学省

5月18日 茨城県南部の地震

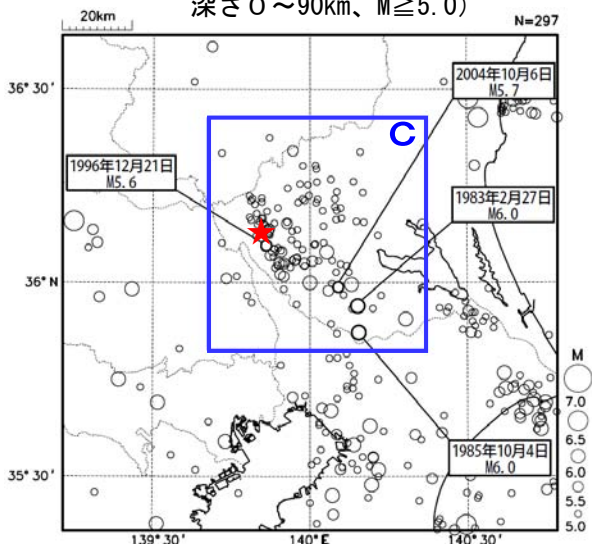
震央分布図（1997年10月1日～2012年5月31日、
深さ0～90km、 $M \geq 2.0$ ）
2011年3月以降を濃く表示。



領域aの断面図（A-B投影）



震央分布図（1923年1月1日～2012年5月31日、
深さ0～90km、 $M \geq 5.0$ ）

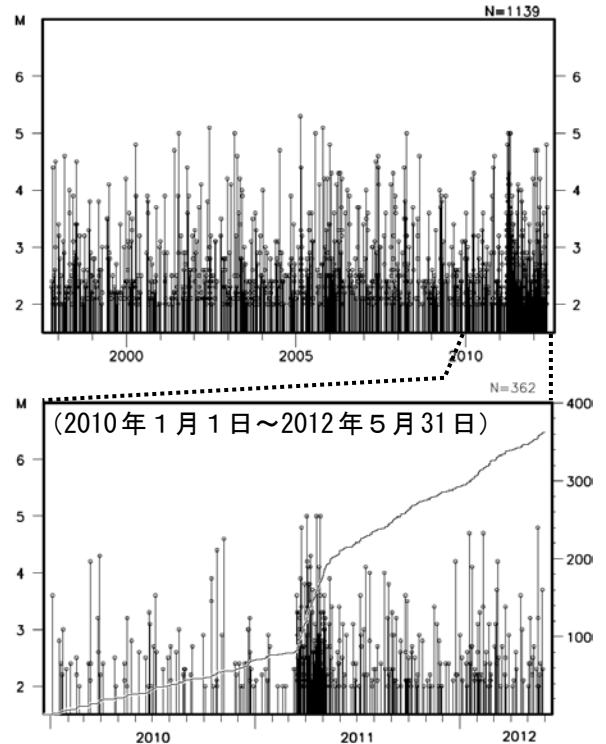


★は今回の地震の震央位置

2012年5月18日17時18分に茨城県南部の深さ51kmでM4.8の地震（最大震度4）が発生した。この地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、陸のプレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震であった。

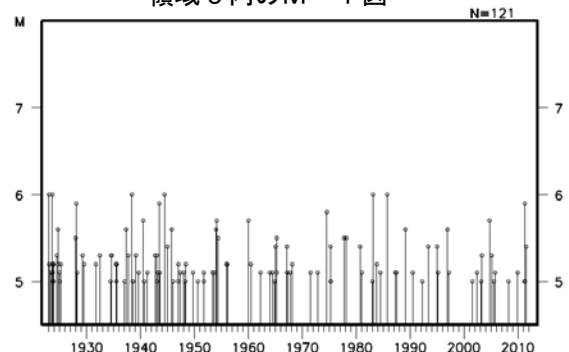
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）は、M4.0以上の地震が度々発生する、活動が活発な領域である。また、2005年7月28日に、今回の地震とほぼ同じ位置で、M5.0の地震（最大震度4）が発生している。

領域b内のM-T図および回数積算図



1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域c）は、M5.0以上の地震が時々発生している。そのうち、1996年12月21日に発生したM5.6の地震（最大震度5弱）では、負傷者1人、住家の一部破損107棟などの被害が生じた（「最新版 日本被害地震総覧」による）。

領域c内のM-T図

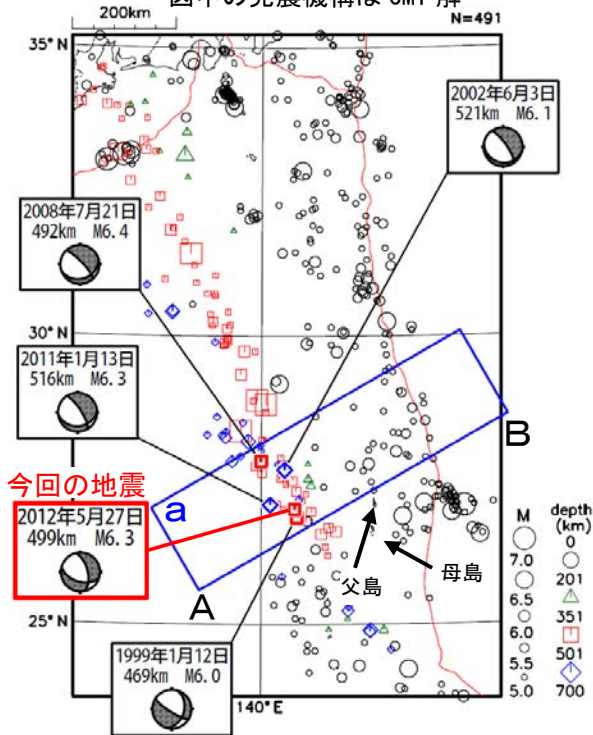


5月27日 小笠原諸島西方沖の地震

情報発表に用いた震央地名は「父島近海」である。

震央分布図（1997年10月1日～2012年5月31日、 $M \geq 5.0$ 、深さ0～700km）

図中の発震機構はCMT解

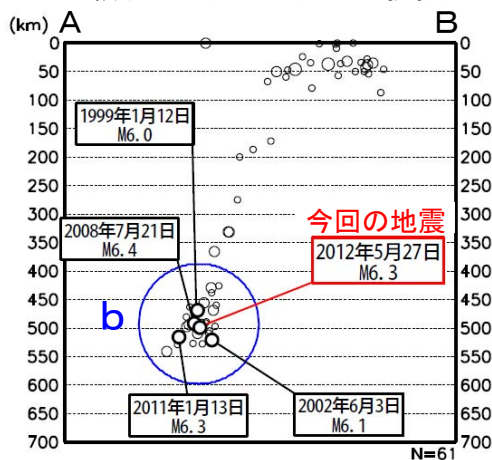


2012年5月27日06時48分に小笠原諸島西方沖の深さ499kmでM6.3の地震（最大震度2）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は、北西－南東方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震であった。

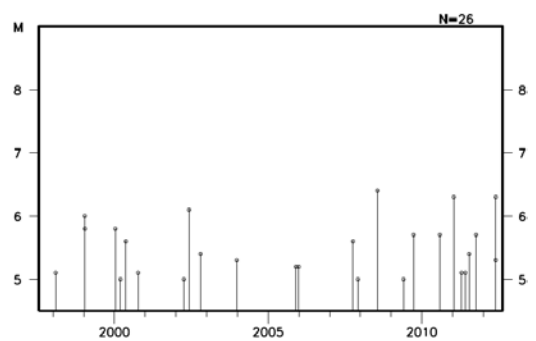
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M6.0以上の地震が時々発生している。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、1984年3月6日にM7.6の地震が発生し、死者1人、負傷者1人などの被害が生じている（「最新版 日本被害地震総覧」による）。

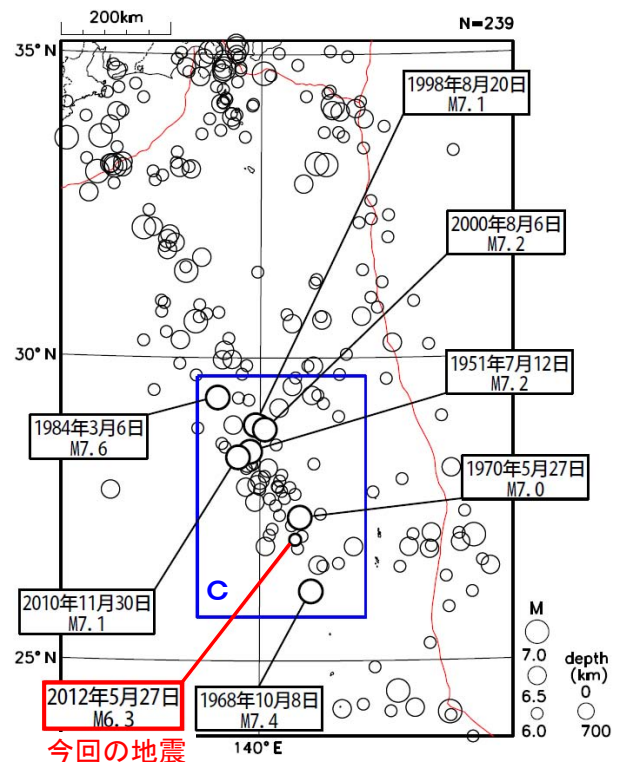
領域aの断面図（A－B投影）



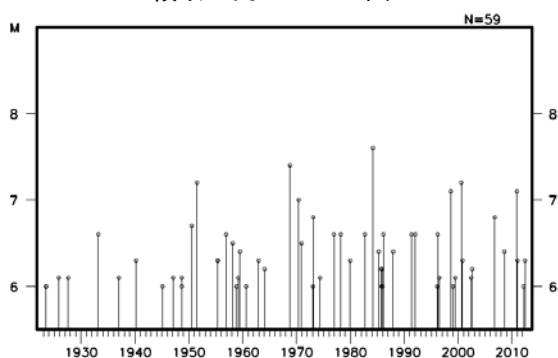
領域b内のM－T図



震央分布図（1923年1月1日～2012年5月31日、 $M \geq 6.0$ 、深さ0～700km）

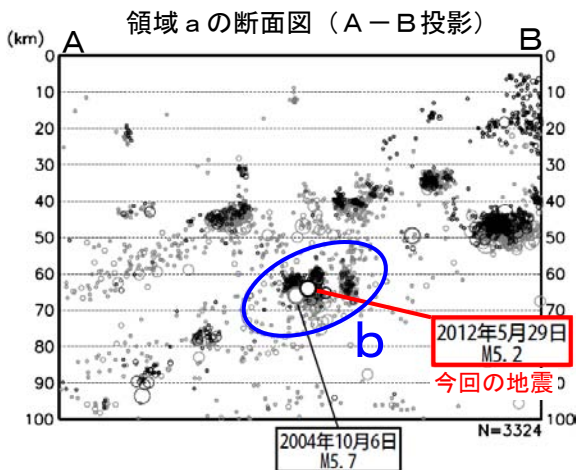
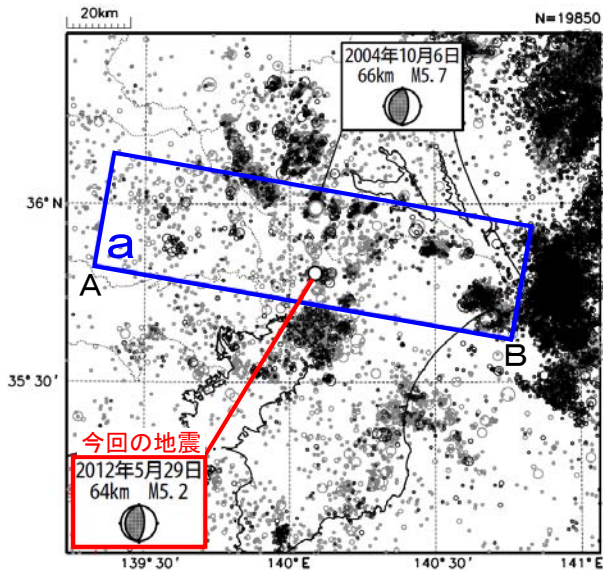


領域c内のM－T図

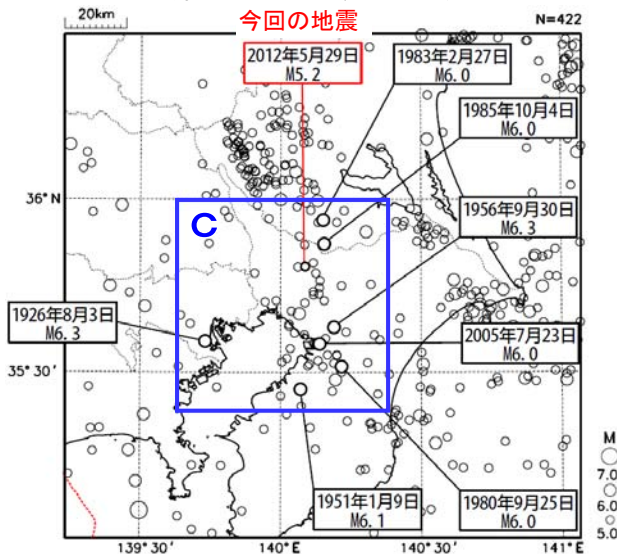


5月29日 千葉県北西部の地震

震央分布図（1997年10月1日～2012年5月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 2.0$ ）
2011年3月以降を濃く表示。



震央分布図（1923年1月1日～2012年5月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$ ）

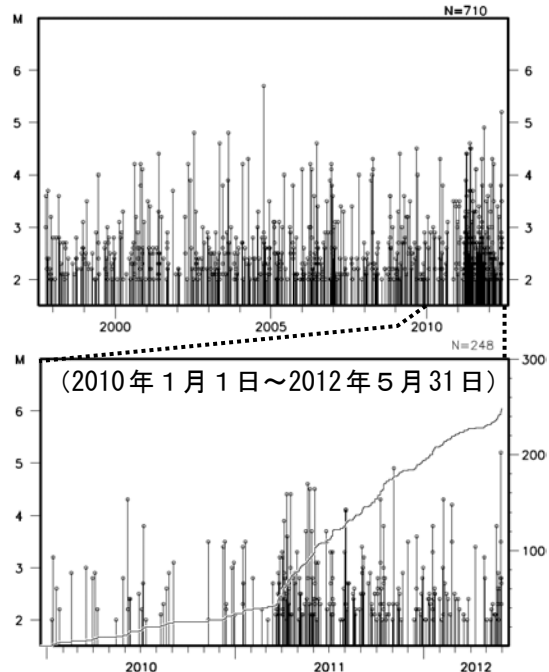


2012年5月29日01時36分に千葉県北西部の深さ64kmでM5.2の地震（最大震度4）が発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと太平洋プレートの境界で発生した地震であった。

今回の地震の震源付近（領域b）は、2011年3月11日の「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」発生以降、活動がより活発になっている地域である。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）で最も規模の大きい地震は、2004年10月6日にM5.7の地震（最大震度5弱）であった。この地震により負傷者4人、水道管破裂などの被害が生じた（総務省消防庁による）。

領域b内のM-T図および回数積算図



1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域c）は、M6.0以上の地震が時々発生している。そのうち、1956年9月30日に発生したM6.3の地震（最大震度4）では、負傷者4人の他、一般構造物、配電線に軽微な被害が生じた（「最新版 日本被害地震総覧」による）。

領域c内のM-T図

